



2023年度北海道雪氷賞「北の六華賞」を受賞!

2024年5月31日(金)、6月1日(土)に2024年度日本雪氷学会北海道支部の研究発表会が開催されました。研究発表会に先立って、2023年度北海道雪氷賞表彰式が行われ、当センター地域政策研究所次長の永田の研究(車載カメラの画像を用いた吹雪時の視界状況評価)が、積雪寒冷地への社会貢献が大きい研究に与えられる「北の六華賞」に選ばれました。なお、研究発表会では、「雪氷と社会基盤」のセッションにおいて、富田上席研究員が、冬道での転倒者に対して実施したアンケートから、転倒者の特徴や転倒しやすい行動などを分析した結果を報告したほか、三原研究員が、25市町村(31箇所)の流・融雪溝供用地域における流・融雪溝の利用実態や管理運営、抱えている課題等についての調査報告を行いました。



写真上:北の六華賞を受賞した永田
写真左下・右下:研究発表を行った富田、三原



第76回(令和5年度)北海道開発技術研究発表会「北海道開発局長賞」、「北海道開発協会長賞」を受賞!

2024年5月31日(金)、第76回(令和5年度)北海道開発技術研究発表会の表彰式が行われ、国土交通省札幌開発建設部 道路設計管理官付 谷野淳道路設計官、苫前町まちづくり企画代表西大志氏とともに、dec三原研究員が、少子高齢・人口減少社会における流雪溝の課題克服への取り組みについての論文で「北海道開発局長賞」を受賞。また、国土交通省北海道開発局 札幌開発建設部 道路設計管理官付 中西慎吾道路設計専門官、同所属の渡辺あゆみ主任とともに、dec渡辺主任研究員が石狩空知みち学習の取り組みについての論文で「北海道開発協会長賞」を受賞しました。

【開発局長賞】写真上(左から):西氏、谷野氏、dec三原
【北海道開発協会長賞】写真下(左から):dec渡辺、中西氏、渡辺氏



編集後記

この度、dec設立40周年記念事業の一環として、「シーニックバイウェイすごろく」を制作しました!このすごろくは、シーニックバイウェイ北海道をより身近に感じてもらうため、全17ルートで取り組まれている活動やルートおすすめ美しい景観をゲーム要素として取り入れており、その他北海道の特産品や観光スポット、各地域を象徴するイラストも盛りだくさん!「シーニックバイウェイすごろく」は、decのHPから無料ダウンロードできますので、ぜひお子さんやお孫さんと楽しく遊びながら北海道の魅力を再発見してください!(R.W)



写真:「シーニックバイウェイすごろく」で遊ぶ子どもたち



dec monthly

2024.6.1 vol.465 デックマンスリー



- Monthly Topic (マンスリートピック)
コロラド・シーニック・アンド・ヒストリック・バイウェイズの視察に行ってきました!
- dec Report (デックレポート)
日本風景街道大学・菜の花田原キャンパス参加報告

dec Interview >>> コロラド州運輸省 コロラド・シーニック・アンド・ヒストリック・バイウェイズ プログラム・マネジャー レノア・ベイツ 氏

本場米国のシーニックバイウェイ制度に刺激を受け、取り組みが始まったシーニックバイウェイ北海道。コロラド州のColorado Scenic & Historic Byways(以下「コロラドバイウェイズ」)とは、関係者間で長く親しい交流が続けられてきました。現在、運営の中核を担うレノア・ベイツさんにオンラインでお話をうかがいました。

今年5月、コロラド州アラモサを中心に開催された「コロラドバイウェイズ・シンポジウム2024」には、シーニックバイウェイ北海道の関係者7名が参加し、レノアさんにはルートを案内いただくなど大変お世話になりました(P.3-4 トピック参照)。

今回は私の運転で1週間、見どころをご案内することができて、北海道の方々と今までになく関係を深める機会となり、よかったです。

道中、北海道の方々からいただいた質問は興味深かったですね。動物や道路についての問い合わせが多く、私自身、コロラドと北海道との違いや共通点に気づくことができました。例えば、コロラドバイウェイズの一部は未舗装の土の道で、高速道路に比べて狭い道も多い。これは北海道のシーニックバイウェイとの違いでしょう。

では、現在のお仕事に就かれるまでの経歴をご紹介しますか。

コロラド州に生まれ育ち、高校卒業後、大学に進学したのですが、学資の不足を感じて途中で陸軍に入隊しました。GIビルという軍の退役者を対象にした教育支援を受けるためです。軍では郵便事務の職員として訓練を受けた後、ドイツ南部バイエルン州にあるアンスバッハ(Ansbach)市に駐留する際に配属されました。

アンスバッハは歴史的建造物や美しい庭園の多いまちで、プライベートな時間には大いに歩き回って楽しんだものです。「フォルクスマーチ(Volksmarch)」と呼ばれる、市民のためのウォーキングイベントにも参加しました。

ドイツで2年間働いた後、コロラド州陸軍(州兵)に移り、補給担当の軍曹として6年間勤務しました。この間の任務で最も印象に残っているのは、1993年8月にデンバーで開催された「第8回ワールド・ユース・デー」(数年ごとに世界レベルで行われる盛大な青年カトリック信者の集会)。このときは私たちの司令部が開催を支援しました。

州兵は予備役だったので、任務の期間は月1回の週末と年2週間でした。この間に大学の夜間クラスに通うとともに医療研究所で事業用車両の運行管理などの仕事をしました。やがて経営学の学士号(BA)、続いて経営学修士(MBA)を取得しました。

その後、デンバー地域政府協議会でバン・プール・コーディネーター(バン型自動車の駐車や運行の調整管理者)として

風光明媚なコロラド州のなかでも、26のバイウェイルートの美しさは格別。その魅力や地域のさまざまな物語を広く発信する仕事に携わることができて幸せです。

dec Interview

Lenore C. Bates

米国コロラド州生まれ。大学の途中で米国陸軍に入隊。ドイツに2年間駐留後、コロラド州陸軍に予備役で6年間勤務。その間に学業を再開し、医療研究所の車両運行管理などの仕事をしながらMBA(経営学修士)を取得。デンバー地域政府評議会でも車両の運行管理などの仕事を終えてコロラド州運輸省へ。2010年から現職。趣味は読書、ガーデニング、ハンティング、スノーモービル、スキューバダイビングなど幅広い。



勤務し、その後、コロラド州運輸省 (CDOT)に移りました。

CDOTでは当初、子どもたちの安全な通学ルートのプログラム・マネジャーを担当。これは徒歩や自転車で通学する子どもたちのために、より安全な通学路をつくる支援をする仕事です。この仕事で私はたくさんの地域プランナーやエンジニアたちに出会いましたが、それが現在のバイウェイのプログラム・マネジャーへの異動を容易にしたと思います。

コロラドバイウェイズのプログラム・マネジャーに着任されたのは2010年。どんな仕事をされてきたのでしょうか。

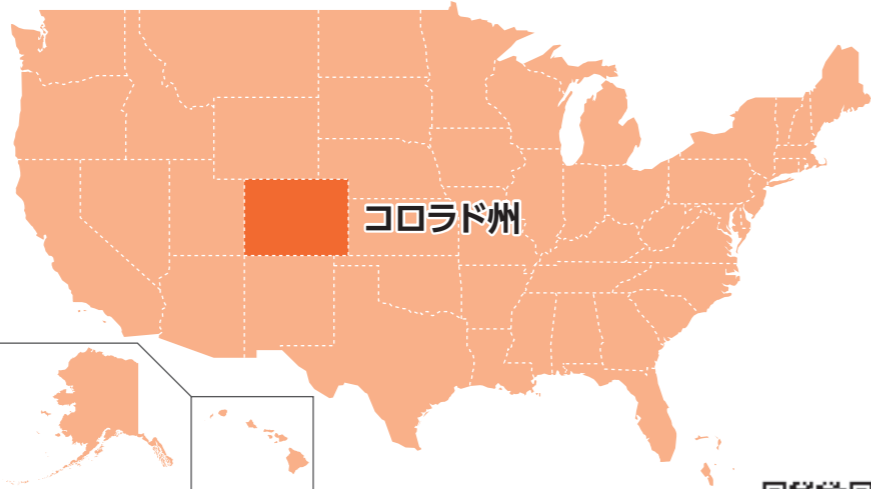
コロラドバイウェイズには26ルート、延長2565マイルに及ぶバイウェイがあります。この全ルートを対象に運営管理を支援するのが私の仕事です。

26のルートはそれぞれ個別に運営されており、その運営主体の形態や手法はさまざまです。例えば、NPOであったり、国立公園のなかの部署であったり、それぞれ特徴があるのですが、そうした多様な運営主体への対応が私の仕事の大きな部分を占めています。具体的には、各ルートの運営資金が得られるように国などの公的助成金、補助金の申請手続きなどをサポートすることが多いですね。コロラドバイウェイズのプロジェクト予算については州政府より連邦政府から得る資金の方が大きいと思います。

コロラドバイウェイズとしてのプロジェクトの企画や推進の仕事では、例えば、今回の「コロラドバイウェイズ・シンポジウム2024」の開催がそうで、コロラドバイウェイ



コロラドバイウェイ・シンポジウム2024でのシーニックバイウェイ北海道の説明



コロラドバイウェイ詳しくはこちら → → →
Colorado Scenic & Historic Byways



イ委員会の一員として企画運営に携わりました。ちなみに、シーニックバイウェイ北海道との交流を深めることも私たちのプロジェクトの一つになっています。私はCDOTのプログラム・マネジャーとしてシーニックバイウェイを専門に担当していますが、シーニックバイウェイへの取り組み方は州によってさまざまです。先日のシンポジウムに参加していたテネシー州運輸省のシーニックバイウェイ担当者によると、彼のバイウェイの仕事は週1日だけで、他は高速道路の管理などの仕事をしているということでした。また、民間のエンジニアやコンサルタントがプログラム・マネジャーを務めている州もあり、フロリダ州では州全体ではなく、より細かい地区別にプログラム・マネジャーがいて活動しています。

私の場合、風光明媚なコロラド州のなかで、バイウェイズという特に美しい場所で仕事ができることを幸せに思っていますし、地元の人々が伝えたいと思う地域の魅力や物語の発信をサポートする仕事にやりがいを感じています。

まさにコロラド州はロッキーの山並みが美しい景勝地で、歴史的な見どころも豊か。26ルートの魅力も多彩ですね。ルートに関する最近の取り組みや成果について、いくつかピックアップしてご紹介ください。

「アルパインループ (Alpine Loop)」と「シルバースレッド (Silver Thread)」は近接したルートですが、国からの助成金により、現在、①ヴォールト・トイレ (水を使用しないトイレ)、②プルアウト (狭い道路で部分的に設けられる安全地帯のようなスペース)、③夜空観察のための展望台、の建設のプロジェクトを進めています。積雪の関係で6月から9月までの工期で並行して整備する予定です。

「ラリアットループ (Lariat Loop)」は、5月に北海道のみなさんをご案内したところですが、最近、運営主体が商工会議所から新しいアウトドア・レクリエーション組織に変わりました。道の歴史や地質学的な特性などビジターへの情報提供に力を入れようとしています。



ラリアットループでの視察にて立ち寄り箇所の歴史について説明を受ける

「ピーク・トゥ・ピーク (Peek to Peek)」は、ロッキーマウンテン国立公園の山麓を巡るルートですが、運営主体が地元の商工会議所に加入し、宿泊や飲食店、ショッピングなど

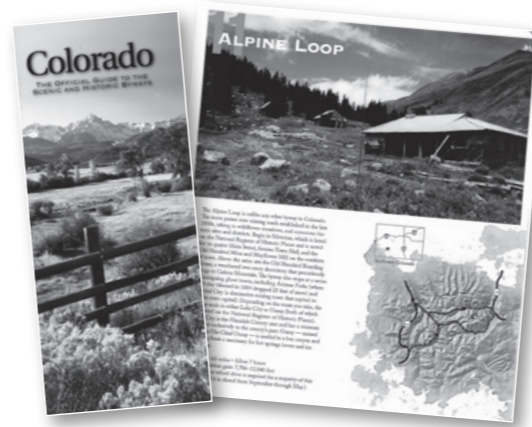
観光客対応のサービスを強化しようとしています。また、アウトドア・レクリエーションを充実させて、よりクリエイティブなルートになることを目指しています。

もう一つ、「サンファンスカイウェイ (San Juan Skyway)」は236マイルと非常に長いルートで、沿道に多数の郡を含み、CDOTの2つの管轄区にまたがっていて管理も複雑ですが、二人の共同議長が新たなルート計画を進めようとしています。

コロラドバイウェイズは1989年に最初の5つのルートが指定されました。現在の26ルートはそれぞれ独自の方向性を追求し、観光資源を開発しながら維持されてきました。

では、26ルートを束ねるコロラドバイウェイズプロジェクトとして、最近、取り組んでおられることや今後の課題について教えてください。

さまざまなメディアを通じてコロラドバイウェイズをPRすることは大事な役割ですが、長年変わらず、ビジターに人気があるのはオフィシャルガイドのパンフレット (Colorado: The Official Guide to The Scenic And Historic Byways) です。ホームページからもダウンロードできるのですが、印刷の冊子を求める人は多く、現在も増刷しています。近々内容を更新し、7月に印刷することになっています。



オフィシャルガイドのパンフレット (Colorado: The Official Guide to The Scenic And Historic Byways)



コロラドシーニックバイウェイの写真展

もう一つ、近年の取り組みで成功しているのは写真展です。大切なマーケティング手法として空港や公的施設など州内を広く巡回するかたちで展示を続けています。実は「シーニックバイウェイ北海道国際フォーラム」(2015年札幌)にコロラドの関係者が参加した際、シーニックバイウェイ北海道のパネル展に刺激を受け、そのアイデアをコロラドに持ち帰って始めたものでした。あまりうまくいっていないことを挙げるとすれば、歴史的標識の維持管理の問題でしょう。バイウェイには沿道の情報を記した歴史的標識や看板がたくさんありますが、物理的に経年劣化していたり、記述内容を更新できないままになっているものがあります。バイウェイに関する情報は、将来的にはアプリで提供することも考えられますが、道によっては、誰がいつ、どのような背景でつくったのか、まだ明らかでない場合もあります。今後、解明されたことを補充していく必要があると考えています。

コロラドバイウェイズの委員会では今後、戦略計画を更新する予定ですが、当面の主要課題の一つに、各バイウェイにおける可視領域解析 (Viewshed Analysis)を進めることがあります。これは、LiDAR技術とDEM (デジタル標高モデル)のGISデータを使って、州や地域のプロジェクトでGISのレイヤーを利用できるようにすることが目標で、道路からの眺めの特定など交通関係だけでなく、土地利用計画にも活用できるようにすることを目指しています。

レノさんは2019年夏にご家族で来道し、シーニックバイウェイ北海

道も楽しめました。その印象はいかがでしたか。

北海道訪問時に娘がつくった折り鶴は、今も部屋に飾っています。

北海道を車で走って見て、コロラドとの違いがいろいろあり、大変でした。標識には慣れないし、そもそも車は米国と違って左側通行ですから (笑)。

でも、山の風景はコロラドにも似ているところがあって美しく、湖や川でのカヌーはとても楽しかった。道北への列車の旅もよかったですね。留萌の郷土資料館だったでしょうか、太鼓の演奏があって非常に面白かった記憶があります。

それから食べ物。家族全員大満足のおいしい旅でした。夫は釣り好きなので、漁村を訪れて楽しかったようです。新鮮な海鮮料理を味わえたのはいい経験でした。



ご家族での北海道旅行

北海道に出かけて最も驚いたというか、印象的だったのは「ホスピタリティー」です。おもてなしが非常に行き届いていて、こちらの求めるものに的確に合わせてくれたり、地域の魅力について「これを紹介したい」という気持ちが非常に伝わってきました。これは地域の人々がビジターを迎える上で、とても重要なポイントだと思います。

米国シーニックバイウェイの発祥と呼ばれるコロラド州の『Colorado Scenic & Historic Byways』(以下、コロラドバイウェイズ)。現地で行われているプログラムや地域活動の最新状況を調査し、調査結果を日本国内のシーニックバイウェイ(日本風景街道)に還元すること、さらに、『シーニックバイウェイ北海道』の姉妹ルート協定の締結に向けた調整を行うことを目的に、視察団7名でコロラド州へ行ってまいりました。ここでは、8日間に渡る視察の概要を紹介します。



コロラド・シーニック・アンド・ヒストリック・バイウェイズの視察に行ってきました!

橋本 滯奈(一社)北海道開発技術センター

※RC:ルートコーディネーター

視察団メンバー

- 石田 東生 氏 [シーニックバイウェイ北海道アドバイザー会議 委員長 (筑波大学大学院 特命教授・名誉教授)]
- 伊藤 典弘 氏 [シーニックバイウェイ北海道推進協議会事務局 (北海道開発局 建設部 道路計画課 道路調査専門官)]
- 原文 宏 氏 [(一社)シーニックバイウェイ支援センター常務理事 dec地域政策研究所 所長]
- 永田 泰浩 氏 [dec地域政策研究所 次長 (釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイRC)]
- 中村 幸治 氏 [dec調査研究部 次長 (支笏洞爺ニセコルート/函館・大沼・噴火湾ルートRC)]
- 富田 真未 氏 [dec調査研究部 上席研究員(天塩川シーニックバイウェイRC)]
- 橋本 滯奈 氏 [dec調査研究部 研究員(日高シーニックバイウェイRC)]

私をご紹介します!



日本からコロラド州へ

昼過ぎに北海道を発ち、同日昼頃にコロラド州のデンバー国際空港に到着しました。空港でレノア・ベイツ氏(コロラド州運輸局/コロラドバイウェイズ プログラム・マネジャー)と合流し、レノア氏のアテンドと運転(12人乗りバン)により今回視察を行いました。空港からはハイウェイ(無料の高速道路)等を通り、ロッキー山脈を一望できる展望駐車帯に立ち寄りつつ、宿泊場所となるキャニオンシティへと向かいました。

4月28日(日)

ゴールド・ベルト・ツアー・シーニックバイウェイの視察

2日目は『ゴールド・ベルト・ツアー・シーニックバイウェイ』を視察しました。ここでは、1890年代初頭にゴールドラッシュの恩恵を大きく受けた地域で、一部、かつて金を運ぶための列車を通していた道を現在も活用しているとのことでした。昼食会場のクリップル・クリーク市では地元の首長さんを筆頭とした地域の方々が出迎えてくれました。その後、アーカンソー川の渓谷に掛かる高さ331mの吊り橋であるロイヤル・ゴージ・ブリッジ(アメリカで最も高い橋!)に立ち寄り、宿泊場所へと戻りました。

4月29日(月)

カレッジエイト・ピークス・シーニックバイウェイの視察

3日目は標高4,200m越えの山々が連なり、コロラド州で最も多様なレクリエーションを楽しめる『カレッジエイト・ピークス・シーニックバイウェイ』を視察しました。道中、サライダ市街地や展望駐車帯、プエナ・ビスタ市街地に立ち寄り、マウント・プリンストン・ホット・スプリングス・リゾートでは、残雪の残る山々に囲まれた絶景の中で、日本とは一味異なる温泉を楽しみました。サライダ市街地での散策・夕食後、アラモサへと向かいました。

4月30日(火)

1・2日目 ★コロラドバイウェイズ・コミッションとの協議 ★現地視察

- ★【パネルセッション】シーニックバイウェイのその先には何があるのか?
- ★【テーマセッション】※4つのテーマに分かれて全4セッションを実施
- ★【表彰式】
- ★【日本からの参加者によるプレゼンテーション】
 - ・『シーニックバイウェイ北海道と日本風景街道 進歩・成果・課題』(石田氏)
 - ・『道路をきっかけとした地域づくり〜シーニックバイウェイ北海道〜』(伊藤氏)
 - ・『シーニックバイウェイにおけるルートコーディネーターの役割』(橋本)

3日目

シンポジウム内容

コロラドバイウェイズ・シンポジウム 2024(1日目)

5月1日(水)~3日(金)

午前中に行われたコロラドバイウェイズ・コミッションの打合せに同席し、コロラドバイウェイズとシーニックバイウェイ北海道の交流の拡大、並びに、相互訪問による交流をベースに将来的には観光含む経済交流にも発展させていくことを目的とした協議を行いました。我々視察団からの提案事項である“①相互訪問の定期的な実施”及び“②北海道とコロラドでの相互の情報提供”についてはその場で快諾、“③連携を強化するための連携協定的なものの締結”については来年度開催予定のシーニックバイウェイ北海道20周年イベントでの締結を目指し調整を進め、“④将来の発展的な取り組み”については継続的な議論を行っていくこととなりました。午後にはグレート・サンド・デューンズ国立公園に向かいました。時間の関係で、非常に広大な砂丘のうちの途中までしか登頂できませんでしたが、近隣住民は、周囲の山々からの雪解け水により春にのみ生じる小川での水遊びや、砂丘での砂そり等を楽しんでいました。夕方にはシンポジウムのキックオフ・ウェルカムイベントが行われ、アラモサ国立野生生物保護・ビジターセンターでの星空観賞等を楽しみました。



コロラドバイウェイズ・シンポジウムのロゴマークの元となっている解説版(左から2人目がレノア氏、右から1人目がフミ氏)



グレート・サンド・デューンズ国立公園にて

コロラドバイウェイズ・シンポジウム 2024(2日目)

シンポジウム参加者を対象とした『ロス・カミノス・アンティグオス・シーニックバイウェイ』の視察に参加しました。1900年代初頭に日本人が入植し新たな農業スタイルをもたらした歴史もありながら、ヒスパニック系の人々は奴隷化や差別を受けていた歴史もある地域とのことで、その歴史はもちろん、広大で手つかずの自然も存分に感じることができるバイウェイでした。この日は、各立ち寄り箇所(4箇所)にて地域の方々(計12名)からの説明を受けました。



石田氏のプレゼンテーションの様子

コロラドバイウェイズ・シンポジウム 2024(3日目)

アダムス州立大学で行われたシンポジウム・セッションに参加しました。昼食後に日本からの参加者によるプレゼンテーションの時間を設けていただき、3者それぞれの立場から、日本国内のシーニックバイウェイ(日本風景街道)に関する事例紹介を行いました。シンポジウム・セッション終了後は、アラモサ市街地で開催されていたメキシコ文化をお祝いするシンコ・デ・マヨ・ブロックパーティーで現地の皆さんとダンスを踊るなどして交流を楽しみました。

5月4日(土)

地域コミュニティ拠点の見学・体験~デンバーへ

教育×農業×持続可能性の融合により地域コミュニティの拠点となっているリオ・グランデ・ファーム・パークにて、パークに関する説明を受けた後、農場でジャガイモの植え付けを体験しました。この後、約4時間かけてデンバー市内へと向かいました。

5月5日(日)

ラリアット・ループ・シーニックバイウェイの視察

デンバー中心部から車で30分ほどの距離にある『ラリアット・ループ・シーニックバイウェイ』を視察しました。道路建設時に山を掘り返した際に露呈された地層や、浸食に強い岩石層が取り残され形成されたテーブル状の台地等を見ることができ、長い地球の歴史を感じました。

最後に

今回、8日間にわたり我々を温かく迎え入れてくれ、かつ、終始アテンド対応いただいたレノア氏、通訳対応いただいたフミ・キムラ氏、そして、今回の視察にて出会ったすべてのコロラドの皆さまに心から御礼申し上げます。大変濃密な時間だったため本誌面では書き切れなかった内容も多々あることから、今後、今回の視察結果を一つの冊子に取りまとめる予定です。完成次第、dec monthlyでもご案内します。ぜひお楽しみに!

日本風景街道大学・菜の花田原キャンパス 参加報告

芝崎 拓 (一社)北海道開発技術センター

令和6年2月22日(木)、23日(金・祝)に「日本風景街道大学・菜の花田原キャンパス(以後、菜の花田原キャンパス)」が田原文化会館(愛知県田原市)で開催されました。今回の菜の花田原キャンパスは、新型コロナウイルスの感染拡大により令和2年・3年と2回の延期を得ての開催となりました。

愛知県田原市は、愛知県の南端に位置し、三方を海に囲まれた渥美半島のほぼ全域が市域となっています。農業では花き類が日本一の産地として知られ、キャベツなどの野菜類も全国トップクラスの産地となっています。2月には菜の花が咲き乱れ、黄色の絨毯が一面敷かれたような風景が楽しむことができます。

菜の花田原キャンパスのテーマは、「時代の変化を見据えた日本風景街道の目的とは何か!?～多様な主体の取り組みによる発想の転換と持続可能な活動を支える資金の確保～」日本風景街道に関するNPOや関係機関、行政等、全国から198名の方が参加しました。

まず第一部の開会では、開催地挨拶として愛知県田原市 山下市長(以下、山下市長)が歓迎の言葉を述べられ、次に主催者を代表し、NPO法人日本風景街道コミュニティ 石田代表理事(以下、石田代表理事)が開会の挨拶を行いました。次に日本風景街道コミュニティアドバイザーボード 森内閣総理大臣補佐官のビデオメッセ

ジが放映され、来賓挨拶として愛知県建設局 道路課 桑原道路監から挨拶がありました。

第二部の開催地報告では山下市長より、田原市の産業や観光の現状・取組みの他、日本風景街道の活動や地域の企業、NPOのボランテ

ア活動等について報告がありました。その後の全国先進事例報告は、4つの日本風景街道のルートから報告がありました。トップバッターの十勝シーニックバイウェイ トカプチ雄大空間野村代表(十勝バス株式会社 代表取締役社長)からは、「ビジネス感覚を重視、持続可能な活動を支える資金確保に成功した事例」と題し、ルートの概要とともに、「ふたりぼっちサポート」についての報告がありました。次に、ぐるり富士山風景街道アクションネットワーク 山内事務局長(NPO法人地域づくりサポートネットワーク 代表理事)より、「道路協力団体や観光庁、文化庁など他の制度や事業と連携して成果を上げた事例」と題し、国交省道路局の社会実験や道路協力団体、観光庁の補助事業等を活用した朝霧高原及び周辺地域での景観形成事業について報告がありました。次に日本風景街道別府湾岸・国東半島海への道推進協議会 加藤事務局長より「自治体や他団体、企業との連



愛知県田原市の位置

携で活動資金開発を実現、活動を活性化している事例」と題して、日本風景街道活動における活動資金の考え方や企業との連携の取り組みについて報告がありました。最後に日本風景街道銀山・陰陽結ぶ銀の道 銀の道広域連携実行委員会 桑田会長より、「銀山街道の歴史をテーマに島根、広島、岡山3県の広域ルートの取り組み」と題して、広域的な地域づくりの取り組みを通じた民間企業との連携等について報告がありました。その後、深堀り討論として石田代表理事が座長を務め、先進事例報告を行った4名の他、ゲストとして国土交通省 道路局 環境安全・防災課 田中交通安全政策分析官を迎え、「多様な全国事例から日本風景街道の新たな可能性を探る」と題し、各先進事例報告の深堀り討論を行いました。

第三部は分科会に分かれ、第一分科会は「日本風景街道『心・技・体』の再構築～コロナ禍後のステージへ向けて～」と題し、石田代表理事が座長



[写真左から]●全国先進事例報告:野村代表、●深堀り討論

を務め日本風景街道自治体連絡会より山下市長、婦恋村 成原村長、白川村 熊川村長の他、先進事例の報告を行った4名で議論を行いました。第二分科会は「日本風景街道とサイクルツーリズム～太平洋岸自転車道ナショナルサイクルート 中部・日本風景街道連絡会の事例～」と題し、NPO 法人日本風景街道コミュニティ 代表理事が座長を務め、ゲストとして国土交通省 道路局 森若参事官、NPO法人シクロツーリズムしまなみ山本代表理事、(株)ミヤタサイクル 福田代表取締役社長の3名を迎え、日本風景街道と連携したサイクルツーリズムを展開する5地域から報告を受け、議論を行いました。

分科会後は、全体での閉会式へに移り、各分科会の座長から議論の報告行いました。その後、次期開催地報告として、大分県豊後高田より大分県豊後高田市長の代理で商工観光課 河野課長より次期開催地の紹介を行い、閉会挨拶として日本風景街道大学・菜の花田原キャンパス実行委員会 実行委員長である田原市 鈴木副市長より挨拶をいただき、盛会に終えました。

会場では中部・東北の日本風景街



道を紹介するブースが設けられ、24のルートがポスターセッションを行いPRしました。さらに、シーニックマルシェとして田原市、北海道、宮崎県の道の駅で販売されている特産品の販売を行いました。また、市民も気軽に参加いただけるように、世界に誇れる花のまち田原市をPRするフラワーフォトスポットの設置や花苗の無料配布、クイズラリーといった企画も行われました。



[写真上]中部・東北の日本風景街道ポスターセッション、[写真下]シーニックマルシェ



電照菊の色づけ体験



色付けした電照菊



いちご狩りの様子



伊良湖菜の花ガーデン

23日(金・祝)はエクスカージョンです。当初は自転車コースも予定していましたが、雨天のためバスコースのみでの開催となりました。最初に道の駅伊良湖クリスタルポルトや伊良湖灯台を見学し、伊良湖清田苺園でのいちご狩りを楽しみ、電照菊の見学・色付け体験、伊良湖菜の花ガーデンを見学しました。その後、サンテパクルたはらにて地域の食材を使った昼食が提供され、昼食時に田原市の「願成観音太鼓(かんじょうかんのんだいこ)」の演奏が行われました。最後に道の駅田原めっくんはうすに立ち寄り後、2日間の日本風景街道大学・菜の花キャンパスが無事終了しました。次回は、令和6年9月に大分県豊後高田市で日本風景街道大学の開催を予定しています。



[写真左から]第一分科、第二分科会の様子



[写真左から]●開催地挨拶:山下市長、●主催者挨拶:石田代表理事、●ビデオメッセージ:森内閣総理大臣補佐官、●来賓挨拶:桑原道路監